GSユアサ バッテリー

ECO.R ENJ(エコ.アール イー・エヌ・ジェイ)シリーズ

日本車専用　ENタイプ　バッテリー

バッテリー取扱説明書 補償書付

このたびは、「GS ユアサ バッテリー」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
バッテリーを正しくお取り扱いいただくため、バッテリーをご使用になる前や、点検の前に、本取扱説明書やバッテリー本体の注意表示をよくお読みください。誤った取り扱いをすると、引火爆発、焼損、破損、液漏れ、車両損傷、失明ややけど、けがなどの原因となります。また、本取扱説明書はお読みいただいた後もお手元に大切に保管してください。
尚、ご不明な点はご購入店または弊社にご相談ください。

説明書熟読

目次

1.ご注意……②③④
2.ご使用の前に……④⑤
3.バッテリーの交換方法……⑤⑥⑦
4.バッテリーの保守・点検方法…⑦⑧
5.バッテリーがあがったときには…⑧⑨
6.要項表……⑨
○補償書

『リサイクルの推進にご協力をお願いいたします』
ご不要になった使用済みバッテリーは放置したり、一般ゴミと一緒に捨てたりしないでください。新しいバッテリーをご購入の販売店に引き取りをご依頼ください。

GS YUASA

ENJ-6A SI

1.ご注意（必ずお守りください）

●表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠危 険	人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容です。
⚠警 告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。
⚠注 意	人が軽傷を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です）

	禁止の行為を告げる絵表示です。
	「注意喚起」を促す内容があることを告げる絵表示です。
	行為を強制したり、指示したりする内容を告げる絵表示です。

⚠ 危 険

■説明書熟読

説明書熟読

誤った取り扱いをすると、車両損傷、失明ややけどの原因となります。

■エンジン始動用またはハイブリッド車や電気自動車(EV)の補機用以外に使用しない

＜補償対象外＞
液漏れや焼損、引火爆発、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。

■破裂、爆発注意

破裂、爆発注意

正しいご使用方法、取り扱いメンテナンスなど取扱説明書をよくお読みになってご使用ください。

■火気を近づけない

火気禁止

バッテリーから水素ガスが発生するので引火爆発の原因となります。

■バッテリー液（希硫酸）取り扱いに注意

硫酸注意

失明ややけど、機器腐食などの原因となります。

■目にバッテリー液が入った時の処置

直ちに多量の水で洗眼し、速やかに眼科医の治療を受けてください。

■バッテリー液が口に入るか、飲み込んだ時の処置

直ちに多量の水でうがいを繰り返し、多量の飲料水を飲み、速やかに医師の治療を受けてください。

■取り扱い時は保護メガネ、ゴム手袋を着用

メガネ着用

バッテリー液により失明ややけどの原因となります。

■こども禁止

こども禁止

こどもや取り扱い方法、危険を十分理解しないものに触れさせないでください。

⚠ 危 険

■ブースターケーブルの使用は正しく行う

接続手順を誤ると引火爆発や火災の原因となります。

■バッテリー液量はLOWER LEVEL（最低液面線）以下で使用しない

内部の劣化が促進され、爆発の原因となります。また、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。

■バッテリー、バッテリー端子、液口栓の分解、改造禁止

液漏れや火災、引火爆発の原因、失明、やけどの原因となります。

■バッテリー端子に過大な力をかけない

端子の破損、液漏れの原因となります。

■金属工具などで⊕端子と⊖端子を接触（ショート）させない

スパークにより引火爆発や火災の原因となります。

■静電気に注意

静電気注意

乾いた布などで清掃したり帯電した身体で取り扱うと静電気のスパークによる引火爆発の原因となります。

■ケーブルターミナルや取付金具は確実に固定する

取り付けが緩い状態や腐食した状態で使用するとスパークにより火災、引火爆発の原因となります。

■充電器の使用は正しく行う

取り扱いを誤ると引火爆発や火災の原因となります。充電器の取扱説明書に従い正しく充電してください。

■充電器の接続ケーブルは正しく接続し、充電中は取り外さない

スパークにより引火爆発や火災の原因となります。

■取っ手を持って振り回したり投げたりしない

漏れたバッテリー液により失明、やけどやけがの原因となります。

■密閉された場所で使用しない

バッテリーから発生する水素ガスによる引火爆発、有毒ガスである硫化水素発生時、中毒の原因となります。

■使用済みバッテリーの取り扱いに注意

電気エネルギーが残っているのでこどもが触れる場所に保管しないでください。そのまま廃棄せず、ご購入店に引き取りをご依頼ください。

⚠ 警 告

■バッテリーの交換は正しい順序で行う

順序を誤ると引火爆発の原因となります（詳細はP5～7を参照ください）。

■交換・点検は車両のキーを抜き、または"パワー"スイッチをOFFモードにしライト等のスイッチをOFF(切)にする

引火爆発の原因となります。

■ケーブルの取り付けは⊕と⊖を逆にしない

電子部品の破損、焼損や火災の原因となります（詳細はP5～7を参照ください）。

■充電時の注意

要項表（P9）の普通充電電流(A)以下で充電してください。充電直後の取り付け時はスパーク、火気に注意してください。引火爆発の原因となります。詳細は充電器の取扱書に従ってください。

■皮膚・衣服にバッテリー液が付着した時の処置

直ちに多量の水で洗い流し、石鹸で十分に洗ってください。やけど、衣服の損傷の原因となります。

■電気機器の直接接続禁止

配線が焼損し火災の原因となります。

⚠ 警 告

■異臭、液漏れ、変形した状態で使用しない

破損や液漏れによる車両損傷の原因となります。また、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。

■排気口をふさがない

破裂の原因となります（詳細はP6「3-(3)一括排気チューブおよび排気口栓の取り付け」を参照ください）。

■精製水を入れ過ぎない

液あふれ、液漏れによる車両損傷や火災の原因となります。

⚠ 注 意

■バッテリーは重量物取り扱い注意

横倒し、落下などによるけがや液漏れの原因となります。

■バッテリー液の補充は精製水を使用する

精製水に不純物が入ると異臭、発熱、発火、液減り、有毒ガス発生などの原因となります。

■使用温度範囲−15℃～60℃（短時間使用は−30℃～75℃）で使用する

使用温度範囲以外では凍結や過熱により破損や変形の原因となります。

2.ご使用の前に

（1）バッテリーの用途

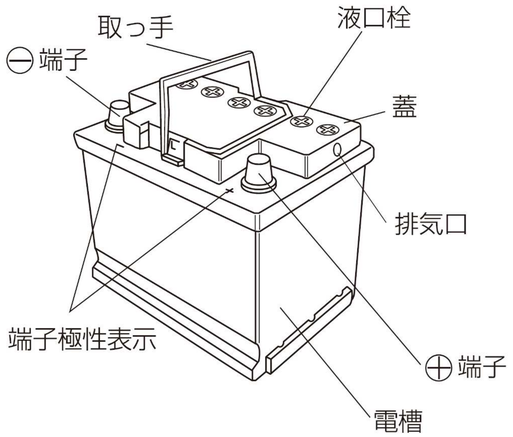
本バッテリーの用途は、自動車のエンジン始動用またはハイブリッド車や電気自動車（EV）の補機用です。上記用途以外に使用しないでください。取り扱いを誤ると液漏れ、焼損、引火爆発、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。バッテリーは、車両の年式、仕様により適合しない車種がありますので、現車及び当社ホームページの適合検索などでご確認の上、お選びください。

（2）保管について

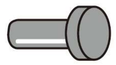
- 高温、高湿、雨露、直射日光を受けることがない、また有害なガス、液滴、粉塵発生、浸水、水没の恐れのない風通しの良い場所に保管し、横倒しの状態や落下しやすい場所では保管しないでください。
- こどもや取り扱い方法、危険を十分に理解しないものが触れることのない場所に保管してください。
- 火気を近づけたり、ショートさせないでください。
- 保管中にバッテリーは使用しなくても自然に放電し、使用できなくなることがあります。ご購入後は速やかに使用を開始してください。

（3）バッテリー各部の名称

※排気口の位置や取っ手の形状、本数はバッテリーの型式によって異なります。

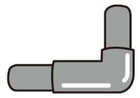


（付属品）



排気口栓※

一括排気チューブ、排気L型パイプを取り付けた排気口と反対側の排気口に取り付けてください。



排気L型パイプ

交換前の電池に取り付けられていたL型パイプが排気口に合わない時に使用してください。

（※排気口が両側にある型式のみ付属。P9「6.要項表」をご確認ください。）

3.バッテリーの交換方法

○バッテリーの交換は、車両等の取扱説明書に従って自己責任のもとで行ってください。

○バッテリーの交換時にラジオ、時計、カーナビなどの電装品及びコンピューターのメモリーのバックアップが必要かどうかは車両等の取扱説明書で事前に確認してください。

○車両に適合するバッテリーと取り替えてください。

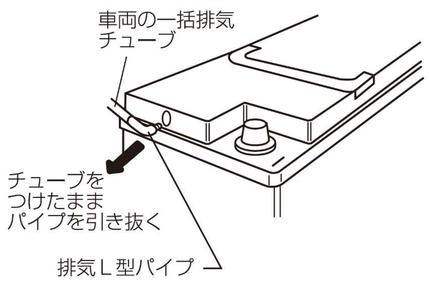
（1）古いバッテリーの取り外し方

①車両のキーを抜く、もしくはパワースイッチをOFFモードにし、エンジンやハイブリッドシステムまたはEVシステムを停止してください。

※ライト等のスイッチはOFF（切）にしてください。

②車両から一括排気チューブが接続されている場合、チューブを付けたまま排気L型パイプをバッテリーから取り外す。

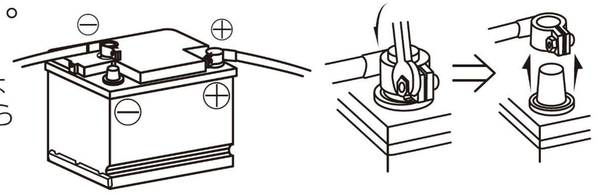
取り外し方



③先に、アース側（一般的には⊖側）ケーブルを、次に⊕側の順でケーブルターミナルを外す。

※ケーブルターミナルを外す時は、まっすぐ上に引き上げてください。

取り外しは⊖端子から



④取付金具を外し、バッテリーを両手でしっかり持って取り外す。

（ケーブルターミナルが汚れている場合はワイヤーブラシ、サンドペーパー等で清掃することをお勧めします。）

（2）新しいバッテリーの取り付け方

①取り付け前に、車両に合ったバッテリーであることを確認する。

②新しいバッテリーを両手でしっかりと持って水平に設置し、取付金具ががたつかないようにしっかりと取り付ける。

※取り付ける時に⊕⊖の位置を確認してください。

※取付金具を締めすぎるとバッテリーが壊れたり、端子が変形することがあります。

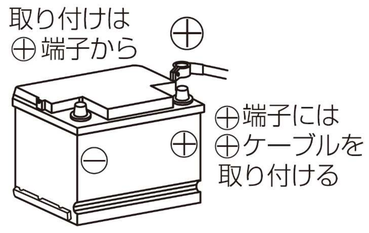
③先にバッテリーの⊕端子に⊕ケーブルターミナルを、次に⊖端子に⊖ケーブルターミナルを取り付ける。

※端子カバーがついている車両は端子カバーを元どおりに取り付けてください。

④エンジン始動前、もしくはハイブリッドシステムまたはEVシステム起動前にケーブルターミナルや取付金具の緩みがないか確認する。

※工具等をエンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。

取り付けは⊕端子から



（3）一括排気チューブおよび排気口栓の取り付け

バッテリーを車室内やトランクルームに搭載する車両の場合

車両に一括排気チューブが付いている場合は必ず実施してください。

①排気L型パイプと一括排気チューブがしっかり接続されていることを確認し、パイプのもう一方の先端をバッテリーの排気口にしっかりと差し込む。

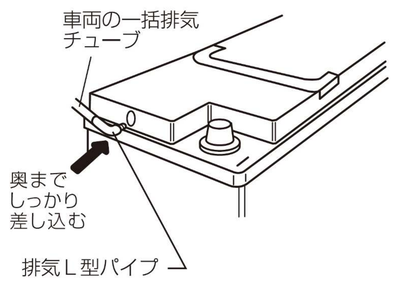
※必ずしっかりと差し込みを行ってください。差し込まれていない場合、有毒ガスである硫化水素発生時、中毒の原因となり大変危険です。

※元のバッテリーに付いていた排気L型パイプが新しいバッテリーに合わない場合は、付属のパイプを使用してください。

②排気L型パイプを取り付けた排気口とは反対側の排気口に排気口栓が確実に装着されていることを確認してください。

（※排気口が両側にある場合のみ）

排気L型パイプの取り付け方



バッテリーをエンジンルームに搭載する車両の場合

①排気口に付属の排気L型パイプを取り付けてください。その際、パイプの先端を下向きにしてください。（※排気口が両側にある場合はエンジンから遠い側の排気口に取り付けてください。）

②エンジンに近い側の排気口に排気口栓を取り付けてください。（※排気口が両側にある場合のみ）

※絶対に全ての排気口をふさがないようにしてください。
バッテリー破裂の原因となります。

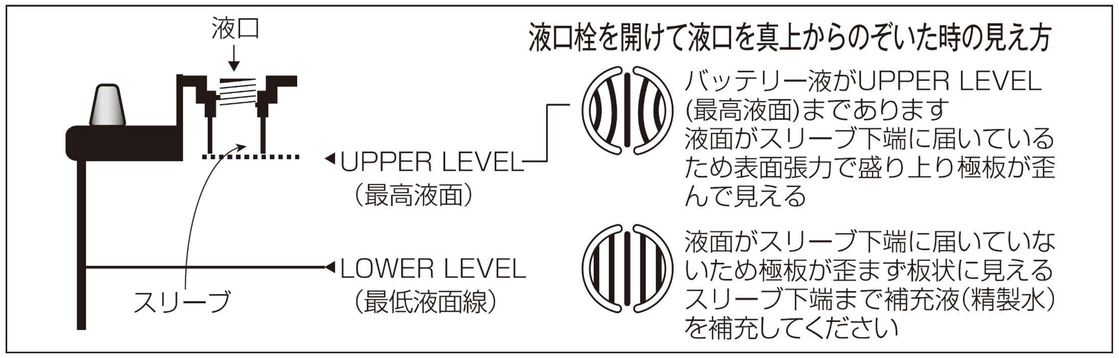
※排気チューブが接続されている場合は、上記「バッテリーを車室内やトランクルームに搭載する車両の場合」の手順にて一括排気チューブの取り付け、排気口栓の取り付けの作業を実施してください。

4.バッテリーの保守・点検方法

バッテリーの液量点検は日常点検項目として定められています。

～バッテリー液量の点検～

①下記を参考にバッテリー液量を確認する。



②バッテリー液量はUPPER LEVEL（最高液面）とLOWER LEVEL（最低液面線）との間に保ち、液量が液面線間の半分以下に減っている場合は、補水をする。

※バッテリー液量はLOWER LEVEL（最低液面線）以下ではバッテリーを使用しないでください。有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となり大変危険です。

※バッテリー内部に白い沈殿物・浮遊物が見られることがありますが、品質には問題ありません。

～バッテリーへの補水～

①バッテリー補充液（精製水）を準備する。

※バッテリー補充液（精製水）は販売店等でご購入ください。

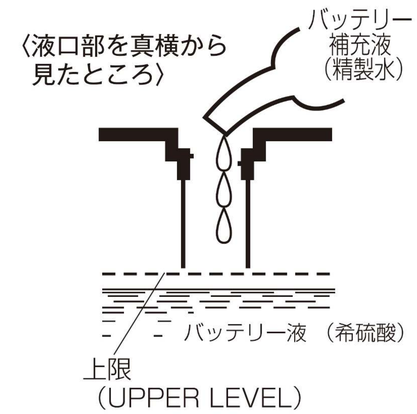
②バッテリーの液口栓を外す。

③バッテリー補充液（精製水）をUPPER LEVELまで補水する。

※UPPER LEVEL以上に補水しないでください。

※補水は6つある液口栓ごとにそれぞれ行ってください。

④液口栓を確実に取り付ける。



～バッテリーの清掃～

水で濡らした布で清掃してください。

※ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤、洗剤、化学ぞうきんを使用しないでください。電槽、蓋の破損や液漏れの原因となることがあります。

～取付金具・ケーブルターミナルの取り付け点検～

バッテリー取付金具、ケーブルターミナルに緩みがないか確認してください。緩んでいる場合は、ナットを締め、確実に固定してください。

5.バッテリーがあがったときには

エンジン始動ができない、もしくはシステム起動ができないなどの場合には、車両の取扱説明書に従って対処ください。また、ご不明な点はご購入店にご相談ください。

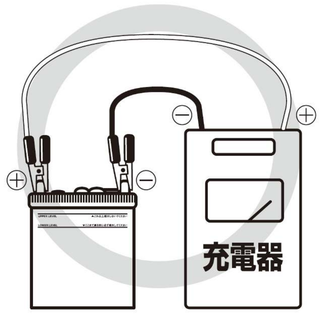
（1）充電器による充電の仕方

充電器でバッテリーを充電する場合は、充電器添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。

充電時は車両よりバッテリーを取り外し、液口栓を取り外してください（火気厳禁）。

充電前にバッテリー液量を確認し、液面がLOWER LEVEL以下の場合は必ず補水してから充電してください。

液不足は爆発の原因となることがあります。



充電電流の設定はP9「6.要項表」の普通充電電流としてください。
通電中にクリップを外すなどスパークの出る行為は厳禁です（爆発注意）。
充電完了後は液口栓を確実に取り付けてください。

※液量確認は、P7「4.バッテリーの保守・点検方法」を参照ください。充電完了の確認は充電器の取扱説明書を参考にしてください。
※充電時間の目安は、普通充電電流で放電程度により5～10時間です。充電完了は放電程度により異なります。充電完了の目安は、どの液口からも盛んにガスが発生している状態です。
※ガスが発生しない、充電されないなどご不明な点がある場合はご購入店または弊社にご相談ください。

(2)ブースターケーブルによるシステム起動／エンジン始動

◆車両取扱説明書の「バッテリーがあがったときには」の項をお読みください。（ブーストする場合にエンジンルーム内の専用端子を使用する場合があります。車両の取扱説明書に従って、ブースターケーブルを正しくご使用ください。）

6.要項表

型　式	20時間率容量(Ah)	普通充電電流(A)	排気口位置	アイドリングストップ車適用
ENJ-345LN0	42	2.0	片側	×
ENJ-355LN1	50	2.5	両側	×
ENJ-375LN2	60	3.0	両側	×
ENJ-375LN2-IS	60	3.0	両側	○
ENJ-380LN3	70	3.5	両側	×
ENJ-390LN3-IS	70	3.5	片側	○
ENJ-390LN4	80	4.5	片側	×
ENJ-400LN5	85	4.5	片側	×
ENJ-410LN5-IS	85	4.5	片側	○

※電池の電圧はすべて12V、比重は1.280（20℃）です。
※端子位置はすべてLタイプです。

「故障かな？」と思ったら…。（よくあるご質問、お問合せ）

①エンジン始動しない。／システム起動しない。

→放電している可能性がありますので充電をお願いします。P8「5-(1).充電器による充電の仕方」の項を参考にしてください。

注：放電はバッテリーの不具合、故障ではありませんが充電をしてもエンジン始動またはシステム起動しない場合はご購入店までご相談ください（補償書を提示してください）。

②バッテリーの底に白いものが溜まっていたり、液が白色、または茶色に濁っている。

→液が白く濁っている場合は製造工程上、部品のペーパーが底に溜まっているもので性能、寿命などには全く影響がありません。安心してご使用ください。

→液が茶色く濁っている場合は過充電、放電気味使用によって極板が傷んでいる可能性があります。また、寿命に至っているものも同じような症状が出ます。早めの交換をお勧めします。

③車両を長期間使用しない間に、バッテリーがあがってしまった。

→バッテリーを車両に搭載すると時計、コンピューターのメモリーなどの消費電流（暗電流）が常時流れ、車両によっては1ヶ月くらいでバッテリーあがりが発生します。
充電していただき、点検で正常であれば補償交換対象となりません。

④エンジン始動はする、もしくはシステム起動はするがバッテリーテスターで「要注意」と表示される。

→一時的に放電気味状態の場合、バッテリーテスターの判定で「要注意」などになる場合があります。
充電していただき、点検で正常であれば補償交換対象となりません。

⑤アイドリングストップ機能がはたらかない（アイドリングストップしない）
※アイドリングストップ車の場合のみ

→バッテリーが放電気味であったり寿命に近づいてくるとアイドリングストップしなくなる場合があります。バッテリーの点検及び車両の点検を受けていただきますようお願いします（補償適用外）。

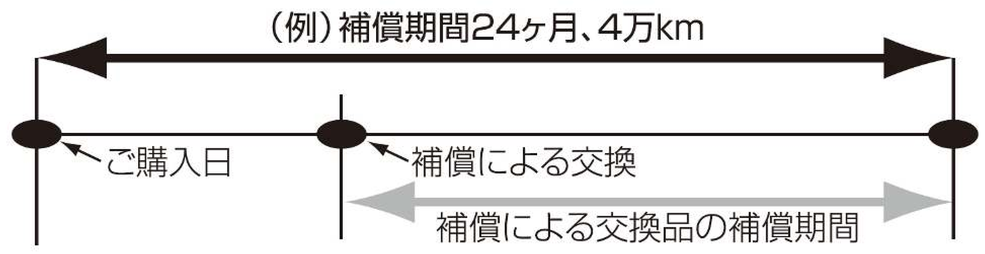
＜ご相談窓口＞
株式会社 GSユアサ
（お客様相談室）**0120−431−211**（フリーダイヤル）
受付：月～金（年末年始、休日など除く）
9:00～12:00、13:00～17:00
※バッテリーの故障や寿命の判断など、ご相談内容によってはご購入店（通信販売、ネット販売等含む）とご相談いただく場合があります。

補 償 条 件

本製品は厳密な品質管理と検査の上、お届けしておりますが、万一ご購入後、補償期間内に正常なご使用状態で不具合が生じた場合は、ご購入店（通信販売、ネット販売等含む）で点検・調査の上、下記の条件により補償させていただきます。

1.補償内容

下記の「補償の対象」「補償期間」に従って、無償で「新品」と交換させていただきます。また、バッテリー交換以外の責はご容赦願います。
尚、補償適用により新品交換した場合、補償期間は当初ご購入いただいた時点からの補償期間が適用されます。



2.補償の対象（国内使用品に限る）

製造上あるいは材料上の不具合により使用不能となったもの（充電で回復する単なる放電状態は適用外ですのでご了承ください）

3.補償期間

補償期間はご購入日より起算した使用期間、または累計走行距離のいずれか早く到達した時とします（ご購入いただいた製品の補償期間については裏面をご確認ください）。

4.適用除外

補償期間内であっても下記の場合、補償は適用されません。

①補償書がない場合、または、必要事項が記入されていない場合
②単なるバッテリーあがりなど、充電により回復するもの（ただし充電により回復した場合の充電代は有料となる場合があります）
③以下の用途に使われた場合
　a）日本車のエンジン始動用もしくはハイブリッド車や電気自動車（EV）の補機用以外の目的（機器の電源など）で使用された場合
　b）アイドリングストップ車非適用型式の電池をアイドリングストップ車に使用された場合
　c）教習車、緊急車両などの特殊用途自動車や、農業機械、建設機械に使用された場合
　d）本バッテリーが適合しない車両に使用された場合
④天災、地異、火災、海難、動乱などによるバッテリーの破損ならびに故障
⑤使用上の酷使、手入れ不十分、過失または事故によって生じた故障と認められるもの
　たとえば、（ア）電槽、あるいは蓋の変形、破損したもの
　（イ）電装品などの故障、欠陥により生じた事故
　（ウ）バッテリーメーカーの指定する精製水以外のものを注入した場合
　（エ）ご購入後保管期間中、放電したまま放置した場合
　（オ）逆接続充電されたもの
　（カ）液量を適正に管理していなかった場合
　（キ）交通事故による破損・故障・機能低下の場合
　（ク）バッテリーを修理・改造した場合（液口栓の分解・改造を含む）
　（ケ）過負荷となるアクセサリーを使用の場合
　（コ）レースなどのスポーツ用途で使用された場合
　（サ）車両搭載のままご使用にならずコンピューターメモリー負荷（暗電流）により放電した場合
　（シ）ご購入後、保管中の自己放電によるもの
　（ス）過補水、雨水や洗車時の水の浸入により液あふれが生じた場合
⑥自動車自体の原因による場合
　たとえば、レギュレーターの設定電圧が基準枠を超えて過充電となった場合
⑦補償書記載以外の車両に載せ替えた場合
⑧バッテリーの搭載位置、車両懸架緩衝装置、充電装置などに改造が加えられた車両で使用された場合
⑨不具合の車両がチェックできない場合
⑩所有者が変更となった場合

注意：ご購入店（通信販売、ネット販売等含む）以外での補償はできませんのでご注意ください。